

第9回伊達市総合教育会議 会議録

1 日時

開 会 令和3年2月18日(木) 15時00分
閉 会 令和3年2月18日(木) 16時00分

2 場 所

市役所本庁舎 2階会議室A・B

3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	菊 地 裕 子
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一

4 欠席した教育委員の氏名

なし

5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	大 矢 悟
企画課長	岡 村 崇 央
企画調整係長	菊 地 真 由
教育委員会	
教育部長	星 洋 昭
教育部参与	櫻 井 貴 志
学校教育課長	安 藤 隆
生涯学習課長	山 根 一 志
図書館長	竹 迫 知 美
だて歴史文化ミュージアム館長	櫛 田 太 郎
指導室参事	林 毅 年
指導室主査	吉 田 寛 和
学校教育課企画総務係	伊 藤 耕 平

開 会 （15時00分）

◎岡村企画課長

本日は、お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。ただいまから、第9回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いいたします。

◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、報告第1号から報告第2号までの2案件です。皆さまからさまざまなご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、報告第1号及び報告第2号について指導室参事から一括して報告願います。

◎林参事

報告第1号「令和2年度伊達市学力テストの結果について」でございます。資料につきましては、別冊でお配りした通りです。昨年12月に実施した伊達市学力テストについて結果が届きましたので、概要を報告させていただきます。

1ページ目から4ページ目までが、本年度の伊達市の結果のデータおよびグラフとなっております。1ページ目、2ページ目に記載されております標準スコアは全国の平均値を50としたとき、伊達市の結果がどの程度かを表したものとなっております。

結果全体としては、本テストを実施した全国の実施校の平均正答率と比較した場合、小学校については、すべての教科で平均を下回る結果となっております。

一方、中学校については、ほぼ全国平均並み、もしくは全国平均を上回る結果となりました。

4ページ目は、平成24年から令和2年までの同一学年の経年変化を比較したグラフ、5ページ目は、調査対象児童生徒の同一集団の経年変化を比較したグラフとなっております。

なお、資料には記載されておきませんが、本調査が設定するそれぞれの目標値に対しては、国語科は、小1小2小5が概ね同程度、中1中2が目標値を上回る結果、小3小4小6にやや課題が見られました。算数科は、小1中1が同程度、中2が目標値を上回る結果、小2から小6までに課題が見られました。理科は、小4小6に課題が見られ、小5、中1、中2は目標値を上回る結果となっております。最後に、英語は、中2は概ね同程度、中1は目標値を上回る結果となっております。

各校には詳細なデータが届いており、そのデータを活用して今後の授業改善ならびに、学力向上プランを策定することとしております。報告第1号については以上となります。

続いて、報告第2号「令和2年度伊達市体力テスト調査結果」についてでございます。資料につきましては、別冊でお配りした通りです。

例年ですと、この場において、各校において実施した、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果についてご報告申し上げるところでございますが、今年度は、今般の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、本調査が中止となりましたことから、本年度に関しましては、伊達市で本調査に合わせて独自に実施しております「伊達市体力テスト」の結果について報告申し上げるところでございます。

本調査は、学校が毎年小学5年生と中学2年生、義務教育学校5年生と8年生を対象にした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施するのに合わせ、小学校1年生から

中学校3年生、義務教育学校1年生から9年生までを対象に、各児童生徒の体力・運動能力を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てることを目的として実施しております。

1 ページ目は、実施種目及び測定方法となっております。伊達市では例年、正確な測定が難しい、低学年の握力、1～3年生の20mシャトルラン以外は、基本全て実施しております。ただし、本年度に関しましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、児童生徒が密になることが避けられない状況が生じる可能性のある種目につきましては、各学校の判断により、未実施としております。

2 ページ目は、上段・中段が、「令和元年の年齢別体力・運動能力調査」の全国平均を50としたときの、伊達市の偏差値がどの程度かを矢印で表したものとなっております。また、下段は、小学校5年生および中学校2年生の結果を、昨年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」全国平均を50としたときの偏差値を矢印で表しております。この表からもわかるとおり、男子女子共に、体格は全国に比べ大きく、特に、やや肥満傾向の児童生徒が多いことがうかがわれます。

また、全体的な傾向として、握力、長座体前屈は全国に比べて高く、上体起こし、反復横跳び、持久走、シャトルラン、50m走の数値は低くなっております。

3 ページから5 ページ目までは、種目別に、各学年の結果をグラフ化したものとなります。また、6 ページ、7 ページ目は、学年別に、各種目の結果をグラフ化したものとなります。どちらのグラフで見ましても、ややばらつきはあるものの、おしなべて学齢が上がるほどに、全国と比べて数値が低くなるものが多く、また、特に女子において、その傾向が顕著にみられます。

8 ページから13 ページまでは、平成29年度から本年度までの4年間の、同一学年の記録の変化を表したグラフです。身長や体重が、年を追うごとに、おおむね数値が上昇しているのに対し、シャトルランや反復横跳びなど、持久力や敏捷性に関する種目は、年々数値が下がっていることが分かります。

14 ページから、17 ページ目は、中学校1～3年生の結果と、同一集団の3年前、小学校当時の結果を比較しております。一部の種目を除き、学年が上がるにつれて、全国との差が開いていることが分かります。

各校には自校のデータを含め、これらのデータを送付しており、日常の体育科の授業での児童生徒の状況を含めながら、今後の授業改善を含めた体力向上の取組を行うこととしております。報告は以上です。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

この資料を見て感じたのは子どもたちの体力をどうにかすることが先決だと感じましたが、皆さんどう思いますか。

◎菊地委員

基本的な運動として歩くことが少なくなっており、その原因として、親御さんの学校への送迎やテレビゲームなどの室内遊びが中心となっていることがあげられると思います。この問題をどうするかという点については、マラソン大会やみんなと一緒に取り組める伊達ならではの体を動かせるイベントがあれば良いのではないかと思います。

◎菊谷市長

このような体を動かす取組をするとして、どの年代から始めるのか、強制すべきか、自

主的にさせるべきかなど、その点については、なにかご意見等ありますか。

◎平田委員

運動を自主的に行うにはやはり、体を動かすことに慣れされることが大事だと思いますので、幼稚園くらいから、徐々に始めさせるのが良いと思います。

◎菊谷市長

以前、伊達西小学校では、縄跳びの取組を行っていたかと思いますが、縄跳びのような体をうごかす取組を各校で行っているのでしょうか。

◎林参事

現在も伊達西小学校では縄跳び発表会を実施しているので、それに向けた取組を行っております。また、伊達小学校では、体を動かす授業の中で5分程度、その授業に必要な機能を鍛える運動を実施しております。

◎菊谷市長

では、なぜ伸びないのでしょうか。

◎櫻井参与

学校として実施はしているものの、目標がないため、体力が伸びていかない。学校は実施することに満足し、縄跳びについても、子ども任せにしている状態であります。今後は取り組みせ方について、学校へお願いをしていかなければならないと考えています。

◎菊谷市長

これは、北海道全体の課題であると思いますが、実際のところどうなのでしょう。

◎影山教育長

道としては、このようなテストをして、各校で課題を見つけ、課題を解決する取組を実施してくださいという程度であります。

やはり、地域ごとでムーブメントを作っていないと、各学校のちょっとした取組では足りないことから、運動をすることへの運動を行っていかなくてはならないと考えます。

また、学力をつけるためにも、受験は体力からというように体力をつけなければならず、将来の健康にもつながるため、市をあげて考えていかなくてはならない時期かと思います。

◎菊谷市長

運動というのは外にでて行うものであることから、引きこもりの問題にもつながっているようにも感じます。子どもたちのモチベーションのあがるような遠足のようなイベントはないのでしょうか。現在、遠足は行っているのでしょうか。

◎林参事

小学校1年生から4年生までは、どの学校でも必ず行っておりますが、5年生6年生は宿泊を伴う行事の中で、自然の中を歩く取組が組み込まれていることから、遠足を実施していない状態であります。

◎菊谷市長

なるほど、他にご意見ありますか。

◎早瀬委員

スポーツ少年団等に参加している子は体力をどんどんつけていくと思います。そのような団体に加入していない子どもたちの体力をつけさせる取組をするにしても、今の子どもたちは忙しく、外で自由に遊ぶ時間もなくなってきていると思います。

他の市町村では、専門家を招いて、正しい走り方をおしえていたことがありません。速く走れるようになることがモチベーションの向上にもつながると思われることから、

正しいスポーツの仕方を学ぶ機会をつくることも必要だと思います。

◎菊谷市長

子どもたちを運動させる仕組みを考えなければならない。スポーツ少年団等に参加している子は良いとして、参加していない子をどのように外に出して、楽しく運動させられるかがポイントであります。学童保育等でなにか考えられれば良いのかもしれない。例えば、週に何回外で運動する仕組みをつくり、そこには学童保育に入っていない子も参加できるようにして、楽しく運動させられる場を提供できれば良いのではないだろうか。

最近の子ともたちはテレビゲームが出てきてから、本当に外に出ない。外に出すには、本当に楽しい思いをさせなければならない。

◎影山教育長

我々が小さいころは、家の中にいても楽しくないから、外に出て遊んでいた。やはり、なにか仕組みを作っていかななくてはならないと思います。

◎平田委員

コロナ禍において、ステイホーム期間等で家の中が充実しすぎてしまったことも問題かと思えます。

◎岩本委員

中学校女子の体力が落ちているとのデータがあったと思いますが、女子が中学校に行き続けられるスポーツが少ないこともあげられると思います。伊達では総合体育館の温水プールを一年中が使用できるので、水泳など女性でも続けられる、学校を超えた部活動が行える仕組みづくりが必要だと思います。

◎菊谷市長

少子化で子どもがどんどん減ってきているので、クラブ方式で学校という単位ではなく、地域単位で活動を行い、中体連があればそれに参加したり、連合チームを組んで参加したり、というような仕組みを取り入れる必要があります。

教育委員会でクラブ方式の事例をさがしてもらい、伊達市として、力を入れる競技を選定し、指導者を週一で札幌から呼ぶなど、そのような取組をすすめるべきかと思えます。

◎岩本委員

クラブ方式で中体連に参加できるのであれば、良いと思います。

◎菊谷市長

中体連は連合チームで参加できるでしょうか。

◎影山教育長

参加できます。

先ほど、市長がお話された事例は、最近では、オホーツクの紋別市が地域共同部活動のような取組を行っております。伊達市よりも人口も少なく、学校も小さくなっているため、教員の数も少なく、専門家がない状態であることから、合同で活動を行い、そこに専門家をいれるという形で実施しております。そんな事例を参考にしながら、考えていきます。

◎菊谷市長

指導者は学校の先生でなくても良いと思います。そういう取組がなされれば、励みになると思います。

◎影山教育長

国としても働き方改革の観点から、部活動を学校から切り離したいと考えております。地方に行けば行くほど、人が少なくなってくることから、そういう形でスケールメリッ

トを作っていかななくてはならないと考えます。

◎菊谷市長

スクールバスがあるので、例えば、この種目は伊達中の体育館、この種目は光陵中の体育館など種目によって会場を分けてもいいと思います。

指導に関しては、学校の先生に補助してもらいながら、週に何回か札幌から指導者に来てもらうというような取組をしていかななくてはならない。今後はすべて学校の先生に任せることは難しいと思います。

その他意見はありますか。

◎菊池委員

先ほど、どの段階から始めるべきかという話の中で、小さいころから取り組むべきだという話がありましたが、よさこいソーランが一世を風靡したとき、運動会でどの学校でも取り組んでおり、すごい運動量だと聞いたことがあります。こんな形で小さいころに動いていくというのは、スポーツでないかもしれないけど、良いことだと思います。

◎菊谷市長

種目に限らず、体を動かせる取組はいいと思います。都会ではダンスが流行していると聞く。ダンスは全身運動であるため、小さいころは、むしろ良いのかもしれない。

◎岩本委員

昔は武者まつりのパレードに子どもたちがよく参加して歩いていたが、今は子どもたちが参加していない。そのような目標となるものがなければ、そのような運動もしなくなってくると思います。

◎平田委員

伊達小学校でも武者まつりで、よさこいを踊っているが、今年度中止になったことにより、ものすごく士気が下がっていると聞きました。

◎菊谷市長

伊達小学校に限らず、今年もコロナの影響で武者まつりが開催できないとしても、ステージを使って踊ったらいいのではないかと思います。

運動に関しては、話がみえてきたと思いますので、次に学力に関して、なにか意見等ありませんか。

◎岩本委員

学力に関しては、この近辺の地域では高い水準で推移していることは良いことだと思います。北海道は英語が弱いと長年いわれているが、伊達は英語が伸びているのは良い方向にすすんでいるのかなと思います。

◎櫻井参与

A L Tの配置人数が、他市と比べ多く配置できており、そういったことも影響しているのかと思います。

◎平田委員

コロナ禍において、学力の低下がみられなかったことは、オンラインでの授業展開のためにタブレットやスマートフォンを貸与してくださるなど、良い環境を整備していただいている結果ではないかと思いました。

◎影山教育長

伊達小の先生方を中心に頑張ってください、オンライン授業のモデル事業が実施できたというのも重要なポイントかと思います。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、報告第1号及び報告第2号につきましては、報告として取扱いたいと思います。

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎岡村企画課長

これをもちまして、第9回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時00分）